

令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	1 2	学校名	茨城県立太子清流高等学校						課程	全日制		学校長名		金子 英樹			
教頭名	江幡 和士											事務（室）長名		小林 隆寛			
教職員数	教諭	25	養護教諭	1	常勤講師	5	非常勤講師	12	実習教諭、実習講師、実習助手		9	事務職員	4	技術職員等	12	計	71
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	農林科学科		19	3	13	0	13	2			45	5	3				
	総合科		16	13	7	11	18	12			41	36	3				
	科																

2 目指す学校像

人間尊重の精神を基盤に、社会の変化に主体的に対応できる、個性的で創造性や国際性に富む、心豊かな人間を育成する。

○一人一人の生徒を大切にし、対話を基本としたきめ細かな教育を行う学校

○自分の将来を深く考え、主体的に進路実現ができる能力を育む学校

○安心して学べる教育環境を提供できる学校

○地域と共生し、地方創生に貢献できる教育を行う学校

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針
（グラデュエーション・ポリシー）

- 人間尊重の心を持ち、社会の変化に主体的に対応できる、心豊かな人材
- 自分の個性を大切にし、対話による高いコミュニケーション力を持つ人材
- 自分の将来を深く考え、主体的に進路実現ができる人材

別紙様式 1 (高)

	○地域の魅力を理解し、地方創生に貢献できる人材
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	○地域の農林業の特性を生かした教育課程による、多様な進路希望の実現 ○生徒の幅広いニーズに対応した教育課程による、就職から進学までの進路希望の実現 ○高齢化社会と地域の要望に応じた実践的な教育課程による、福祉系の進路希望の実現
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	○夢を実現するための確かな学力を育もうとする生徒 ○豊かな心と健やかな体を育もうとする生徒 ○時代の変化やグローバル社会に対応しようとする生徒 ○地域と連携し、地域貢献に努めようとする生徒 ○自分らしく輝ける社会の実現に寄与できる生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導の充実	・学習指導要領で求められる、「主体的、対話的で深い学び」に向け、ICT を活用するなど授業改善を継続して行っている。 ・確かな学力を身に付けるため、少人数授業、習熟度別授業、課外授業等を行うとともに、家庭学習の習慣化を図っている。	・ICT などを活用し、さらなる「主体的、対話的で深い学び」の授業を行い、生徒の学習意欲向上に繋げる必要がある。 ・確かな学力の定着を図るため、課外授業への参加者を増やすとともに、ICT などを活用するなどして家庭学習の更なる習慣化が必要である。
時代の変化，グローバル社会に対応できる進路指導の充実	・3年間を見通した体系的なキャリア教育を展開しているが、進路意識が不十分な生徒や自分に自信が持てない生徒が見られる。 ・タイ王国カセサート大学附属高等学校との学校間交流事業が中止になったが、ワールドキャラバンを行い、グローバル	・夢や憧れを抱ける体験学習の導入など、体系を含めた見直しをする必要がある。 ・学校間交流事業の実施の仕方を工夫し、事業の意義や価値を高めていく必要がある。

	視点を広げられた。	
生徒支援、特別活動、特別支援の充実	・豊かな心と健やかな体を育むため、生徒会・各部・各委員会活動の活性化を図っている。 ・自己存在感や自己有用感を高めるため、生徒面談や教育相談、SC のカウンセリング等を実施し、不登校やいじめの発生が減少している。 ・生徒の特性に応じた教育に組織的に取り組んでいる。	・各部・各種委員会等の活動の活性化、参加生徒の増加のための工夫が必要である。 ・基本的な生活習慣の確立、規範意識の高揚に向けた指導や生徒面談等をきめ細かに行う必要がある。 ・個別の教育支援計画及び個別の指導計画を充実させるとともに、研修等による教職員のスキルアップが必要である。
保護者や地域との連携及び情報発信の充実	・学校発行「清流だより」や学校説明会、ホームページ等の Web コンテンツを活用して情報発信に努めている。 ・地域と連携した生産物の販売実習やボランティア活動、小中学校での農業や福祉の体験学習等、地域との交流を図っている。	・中学生への継続的な「清流だより」の配付、中学生・保護者等への積極的な説明、情報発信に努める必要がある。 ・「だいき未来探究」「学校外学修」の実施するにあたり、地域とより連携を深める必要がある。
働き方改革の推進	・時間外在校等時間における月平均時間は 13 時間 54 分、月平均 45 時間超過者割合は 0.5%、月平均 80 時間超過者割合は 0% であった。 ・統合型校務支援システムによる勤怠管理やワークフローシステムにより、長時間労働は以前より改善されている。意識改革により労働時間の削減を図っている。	・各教員が働き方改革の重要性を理解し、業務の効率化等に継続的に取り組む必要がある。

別紙様式 1 (高)

- 農林科学科、総合学科（人文科学系列・自然科学系列・福祉系列）のそれぞれの特性を活かし、一人一人の生徒の進路実現に努める。
- 地域からの期待に応え、地域の将来を担える人材の育成に努める。
- 各教員の働き方に対する意識改革を行い、時間外勤務を減らすための仕事の仕分けや効率化を図る。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
確かな学力を育む、学習指導の推進	● 主体的学習態度の育成 ・学習意欲を喚起し、「主体的、対話的で深い学び」を実現するための授業改善 ・言語活動の充実及び教科横断的なカリキュラムマネジメントの実践 ・課外授業・公営塾への参加促進及び Classi などの ICT の活用等による家庭学習の習慣化 ● 学習指導の充実 ・ICT の活用、習熟度別授業、少人数授業等による基礎学力の向上及び確かな学力の育成 ・課題解決能力を向上させるための、魅力ある実習及び課題研究の実践 ・農林科学科の特性に対応した組織的、系統的な指導体制の構築 ・指導と評価の一体化のための、観点別学習状況評価の推進
豊かな心と健やかな体を育む、特別活動及び生徒指導の推進	● 道徳教育・特別活動の充実 ・「公共」の授業や特別活動の場面を中核とする学校活動全体を通じた道徳教育の実践 ・生徒会・各部・各委員会活動の活性化による「豊かな心」の育成 ・ボランティア等の体験活動の推進による「他人を思いやる心」の育成 ● キャリア・パスポートの充実 ・主体的に目標を設定し、校内外の諸活動において体験したことや考えたことを表現する力の育成 ● 生徒指導の充実 ・自己指導力の育成による基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚 ・面談等による生徒理解の推進及びカウンセリングの充実
時代の変化やグローバル社会に対応できる、進路指導の推進	● 進路指導の充実 ・進路希望に対応した、組織的、体系的なキャリア教育の充実 ・国公立大学に進学できる学力をつけるための授業実践と課外授業の推進 ・企業訪問・大学見学会・講演会等による、望ましい職業・勤労観の育成 ● 国際教育等の充実 ・国際交流事業等の充実による、異文化並びに自国文化理解教育の推進 ・グローバル社会で活躍するための、多様性の涵養並びに挑戦心の育成

別紙様式 1 (高)

保護者や地域との連携及び本校教育活動に関する情報 発信の推進	● 保護者・地域・小中学校との連携や交流の推進 ・地域との連携による地域人財の積極的な活用（「だいが未来探究」「学校外学修」で実践） ・地域や小中学校との積極的交流による、地域に開かれた学校づくりの推進 ・大子町との連携・協力の強化、支援を生かした教育・広報活動の展開 ● 教育活動等の情報発信の推進 ・「清流だより」の配布、学校HP、「地域みらい留学」等の Web コンテンツを活用した広報活動の充実 ・学校説明会の充実並びに積極的な学校公開・学校訪問の実践
生徒の特性に応じた教育の推進	● 適切な生徒理解による個別支援とインクルーシブ教育の推進 ・適切な生徒理解と教育的ニーズに応じた個別支援の充実 ・インクルーシブ教育実践のための関係専門機関との連携及び研修の推進
働き方改革の実践	● 業務の効率化による働き方改革の推進 ・業務の効率化及び意識改革による働き方改革の推進 ・積極的な休暇取得の推進
授業改善の推進	● 学習意欲向上の推進 ・「育成を目指す資質・能力」を意識し、授業のねらいの提示と授業振り返りの実践 ・教科や領域に応じて適当に ICT 機器を活用するなどし、より深い学びにつながる授業の推進 ・生徒による授業評価（4段階）において、授業満足度（KPI）3.4 以上を目指す